

平成 19 年度教員教育国際協力センター活動報告

1. センター教員

センター所長	服部 勝憲 教授
理数科教員養成研究分野	服部 勝憲 教授
I T 教育人材養成研究分野	青山 和裕 講師
派遣人材養成・事業評価研究分野	小澤 大成 准教授

2. 外国人客員研究員

マフミコ・フィデリス タンザニアダルエスサラーム大学教育学部長

(平成19年11月27日～平成20年2月29日)

マヌ・シタニセラオ・スタン フィジー南太平洋大学特別研究員

(平成20年1月21日～平成20年2月29日)

メアリー・ゴレッティ・ナカブゴ

ウガンダマケレレ大学教育学科上級講師／カリキュラム教授法教材研究科長

(平成20年1月9日～平成20年2月27日)

* (独)国際交流基金知的交流フェロースHIP事業により来日し、教員教育国際協力センター外国人客員研究員としてではなく、鳴門教育大学外国人客員研究員として招へい。

3. 主要行事日程

平成19年7月31日～8月3日	ミクロネシア IT 教育ワークショップ
平成19年11月10日	国際交流フェスター -Naruto in the World, The World in Naruto -
平成19年12月26日	国際教育協力 (IT 教育分野) 専門家会議
平成20年1月14日	「国際協カイニシアティブ」教育協力拠点形成事業シンポジウム ー現職教員派遣制度の意義・その現在と未来ー
平成20年2月13日	外国人客員研究員講演会

4. 主要事業概要

(1) ミクロネシア IT 教育ワークショップ

平成19年7月31日(火)から8月3日(金)にかけて開催されたミクロネシア地域広域研修において、IT 教育ワークショップも実施した。無償でダウンロード・インストールできる算数・数学学習用ソフトや教材作成ソフトについて紹介し、利用方法に関する講習を行った。

(2) 国際交流フェスター -Naruto in the World, The World in Naruto -

鳴門教育大学に在籍する外国人留学生、外国人研究者及び日本人学生と地域住民との交流の場を提供するという趣旨のもと、本センターと日本語教育分野、大学祭(鳴潮祭)実行委員会の共催で、平成19年11月10日(土)に開催した。

第1部「Naruto in the World」は、“海外で活躍する人々”に焦点をあて、本学を卒業(修了)し、海外で活躍する学生・留学生の方達やその他の日本人海外協力者と、野外においてリアルタイムでの交信を行った。

第2部「The World in Naruto」は、国内外学生達による民族衣装のファッションショーを行った。途上国とのリアルタイム交信による生の声の迫力にひきつけられたり、ファッションショーの華やかさに目を奪われたなどのコメントも寄せられたことから、目的を達成できたとみられる。

(3) 国際教育協力（IT教育分野）専門家会議

途上国におけるIT教育分野の改善に向けて、本センターの主催で、平成19年12月26日(水)に本学で開催した。学外から2名の専門家を招き、鳴門教育大学INCETでのIT教育実践と課題についての発表、徳島県立総合教育センターにおけるIT教員教育の取り組みに関する発表、徳島県地域におけるIT教育の取り組みに関する発表を行った後、全体討論を実施した。IT教育分野の改善を目指していく上での課題に関する議論を深めることができ今後の展望が得られた。

(4) 「国際協カイニシアティブ」教育協力拠点形成事業シンポジウムー現職教員派遣制度の意義・その現在と未来ー

文部科学省、独立行政法人国際協力機構四国支部との共催により、平成20年1月14日(月)高松市生涯学習センターにて開催した。本シンポジウムの主旨は、「シンポジウム、パネルディスカッションを通して、青年海外協力隊・帰国現職教員の教育活動・交流活動の共有を図るとともに、その事例について検討を加え、国内外における意義ある実践について提案・発信する。ポスターセッションにより鳴門教育大学の国際協カイニシアティブ活動についても紹介する」である。第一部では、本学高橋学長の挨拶に始まり、文部科学省、国際協力機構による挨拶及び講演及び京都市教育委員会の講演、そして当センター教員による話題提供を行った。第二部ではパネルディスカッションとして、現職教員制度を利用し途上国で国際協力を行った教員及び青年海外協力隊の参加歴を評価され採用された教員が、自らの協力経験とそれを踏まえた教員としての成長、そして帰国後の経験共有について報告を行い、それに基づき全体で議論した。参加者については、英語同時通訳を実施し、開発途上国からの外国人参加者20名近くを含む120名(定員100名)が集まった。現職教員参加者も多く見受けられ、現職教員特別参加制度とその意義についての理解を深め、また経験の活用に関するアイデアを共有でき、目的を達成したと考えられる。

(5) 外国人客員研究員講演会

平成20年2月13日(水)に以下の順で行われた。

① マヌ・シタニセラオ・スタン「南太平洋大学教育研究所と、その太平洋地区の教育に果たす役割」

南太平洋大学教育研究所は、12カ国の教育に対し、指導助言および研究をおこなう機関である。太平洋地区の教育の課題として、教員教育、学習成果を向上させるための評価、MDGおよびEFA目標達成、現地語での教授が挙げられ、特に数学教育の達成度と教授言語および地域性との関連が報告された。

② メアリー・ゴレッティ・ナカブゴ「日本の現職教育と途上国への応用」

教育の質を向上するためには、教員の能力向上が重要であるが、ウガンダでは効果的な教員研修が現在行われていない。この課題を克服するため、日本の授業研究に着目し、その実態調査を行い、ウガンダへの応用を検討した。管理職の深い理解とパイロット学校での導入という試案が報告された。

③ マフミコ・フィデリス「中等学校の化学学習を支援するマイクロスケールの化学実験ータンザニアの例」

中等学校レベルの化学学習を行うには実験が重要であるが、タンザニアの場合、実験設備や試薬が不足し、教員の教授技術にも課題がある。これを克服するため資源の少ない学校現場でも適用可能なマイクロスケールの化学実験を開発し、学校現場での試行を通じて改善し、教員向けワークショップにより導入した結果、資源の少ない状況でも実験を行うことができ、生徒の科目に対する興味を高め、より理解を深めることができたとの報告があった。またその実験の一部のデモンストレーションが行われた。

3者の講演終了後、日本および各国の教育との比較、教員の待遇などに関する活発な議論が行われた。

5. 所属教員の海外調査および協力活動

平成19年4月13日～4月22日 南アフリカ共和国ムプマランガ州事業評価調査(小澤大成准教授)

5月29日～6月8日 中東地域教育事情調査(服部勝憲教授)

7月28日～8月5日 ミクロネシア連邦IT教育ワークショップ(青山和裕講師)

- 8月26日～9月14日 南アフリカ共和国ムプマランガ州事業評価調査（小澤 大成准教授）
平成20年1月21日～1月29日 タンザニア連合共和国ハンズオン素材実地調査（服部 勝憲教授）
2月9日～2月15日 バングラデシュ人民共和国ハンズオン素材実地調査（青山 和裕講師）
3月1日～3月10日 ウガンダ共和国調査（小澤大成准教授）

6. 独立行政法人国際協力機構（JICA）プロジェクト等に係る受託研修

- 平成19年6月11日～7月20日 大洋州地域初等中等算数・数学科教育（大洋州諸国から9名受け入れ）
10月9日～11月9日 地域特設研修「中東地域小学校理数科教育改善」（中東諸国から9名受け入れ）
11月14日～12月7日 国別研修南アフリカ共和国「理数科教員養成者研修」（南アフリカ共和国から10名受け入れ）
平成20年1月31日～2月15日 国別研修「アフガニスタン教員養成校授業案開発C/P研修」（アフガニスタン国から3名受け入れ）
2月12日～2月29日 国別研修「モザンビーク クアンバ・シモイオ教員養成校整備・建設計画C/P研修」（モザンビーク共和国から2名受け入れ）

7. その他受託事業

文部科学省「国際協イニシアティブ」教育協力拠点形成事業（3件）

平成19年4月2日～平成20年3月20日

（継続事業）授業を中心とした校内研修の導入による初中等教育の質的向上（小澤大成准教授ほか）

平成19年5月1日～平成20年3月20日

（新規事業）派遣現職教員の活動の幅を広げるハンズオン素材とその活動展開モデルの開発（服部勝憲教授ほか）

平成19年10月1日～平成20年3月20日

（新規事業）青年海外協力隊・帰国現職教員の教育・交流活動の共有と提案・発信（服部勝憲教授ほか）